

中井だより

中井やまゆり園

冬のコロナの波を乗り越えよう！

医務課 看護係長 川口佳穂里

皆様こんにちは。4月に総合療育相談センターから転入してまいりました、医務課の川口と申します。ご家族・後見人の皆様とはなかなかお会いする機会が少ないのですが、よろしくお願いたします。

11月に入り木々が色づき、園に来るバスの中からもきれいな紅葉が見られています。朝晩の冷え込みも始まり、昼間の暖かさとの差から体調を崩しやすい時期でもあります。衣類での体温調節に加え、身体的変化に注意が必要な季節となりました。利用者様におかれましては、自分の体調の変化を表現することが難しい方が多い中で、寮職員の「あれ？」と思う気づきがとても大切です。そして、「でも？」と悩んだときに、いつでも相談できる場所であることが医務課としての大切な役割だと思っています。ご家族様におかれましても、何か疑問に思ったこと・聞きたいことがありましたら、いつでも声をかけて下さい。

この夏は、当園でコロナウイルス感染・クラスター発生があり、ご家族・後見人の皆様には大変心配をおかけしたことと思います。利用者の皆様におかれましても、日中活動の停止等、いつもの日常生活とは違う物々しい生活に戸惑いがあったと思います。10月には7波も落ち着いていましたが、すでに8波の前兆が聞かれています。年末に向けて懸念されるインフルエンザとの同時流行を考慮して、医務課では現在インフルエンザ予防接種を行っています。また、12月にはコロナワクチン接種を予定しております。毎度のお話ではありますが、まずは外からウイルスを持ち込まない、マスクの着用・手洗いの実施・室内の換気・消毒・黙食を続けていきましょう。体温測定を行い、日々の体温の変化を意識してみましょ。そして、体調の変化が見られた時は、まずは相談！休む事も大切です。できる限りの感染対策を行い、今の日常が保つことができるように取り組んで参ります。社会全体の感染状況によっては、面会についても検討することが必要になるかもしれません、その時はご協力をお願いします。

泉 寮 は ・ ・ ・

生活第一課 泉寮スーパーバイザー 中山 則和

2年ぶりに泉寮に戻ってきました。この2年の間にあまりにも色々なことが起こり、これまで泉寮で行ってきた支援の全面的な見直しを言われているような状況に戸惑いがあることも事実です。泉寮ではその時々、利用者の方が見せる激しい行動に対して、「なんでだろう」と原因を考えていく意識はあったと思いますし、実際に原因を推測し、そこにアプローチしていく土壌はあったと思っています。ただ、そこに利用者本人からの『言葉』『気持ち』はなく、おそらくこうだろうという『職員側の推測』だけで支援を組み立てていたことはあったと思います。また、私の中でも『何とか落ち着いてほしい』『安定した生活を送ってほしい』『そのためには何を支援していったらよいか』という気持ちが強く、落ち着きが見られたら、そこで安心していただけるとも事実です。泉寮で安心した生活が送れるようになったことで、『これを続けていこう』となってしまったのだと思います。

現在関わっていただいているアドバイザーの皆様から、利用者さんの支援を考えていくときに、利用者さん自身の気持ち（言葉）を聞いていますか、利用者さんの本当の気持ちを推測できるほど関わりを持ってきましたか、障害特性に目を向けるがあまり、利用者さんの思いや気持ちを置き去りにしていませんか…ということを指摘されているのだと感じています。

今、中井は変わろうとしています。もちろん虐待事案はあってはならないことですが、変わるきっかけにはなっています。職員の意識も変わってきています。利用者の皆さんの生活はここ（泉寮）がゴールなのか、泉寮での生活を続けることが本当に幸せなのか…。利用者皆さんの可能性を実際に感じながら、泉寮のスタッフと一緒に考えていきたいと思っています。

同じ景色を見るということ

生活第一課 海山寮スーパーバイザー 竹迫 篤司

先日、当事者団体の方々に当園を見学していただく機会がありました。施設見学後に当事者団体の方からお話を聞かせていただく機会があり、その中で、ひとりの当事者の方から当園に向けたメッセージとして「利用者さんと一緒に同じ景色を見てください」という言葉をいただきました。

わたしは、この言葉がとても印象に残ったとともに、この言葉の意味を考えるようになりました。

今年度は、4月から外部の支援アドバイザーに来ていただき、生活支援や日中活動の方法などについて、助言や指導を受けています。アドバイザーからの助言・指導の中には利用者さんとの関わりを増やしていくこと、利用者さんと一緒に何かを

行うことの大切さを教わりました。

おそらく、わたしたちが「利用者さんと一緒に同じ景色を見る」ためには、利用者さんと関わり、一緒に何かをすることから始める必要があるのではないかと思います。例えば、今行っている日中活動を一緒にやってみると、ある活動では「単調な繰り返しでなんかつまらないな」と感じるかもしれません。またある活動では「想像していたより疲れるな」ということを感じるかもしれません。

いずれにしても利用者さんと一緒にやることでしか気がつくことが出来ないことが、きっとあるのだと思います。そして、利用者さんの気持ちや感じていることが今よりも理解できるようになること。そのような関わりを増やしていきたいと思っています。

今年度からのあらたな取り組みとして、当園から外部の事業所に通所をはじめたり、グループホームの体験をはじめた利用者さんもいらっしゃいます。そんな利用者さんのチャレンジをわたしたちも一緒に経験して、一緒に感じて、一緒に考えることで、これから利用者さんが見るあたらしい景色を一緒に見ていきたいと思っています。

利用者みなさんと一緒に「同じ景色を見る」ということの意味をこれからも考えていきたいと思っています。

よろしく申し上げます

生活第一課 泉寮長 瀧澤 徹

4月より泉寮長に着任しました瀧澤です。久々の成人施設ということもあって、慣れないことも多く、まだまだご迷惑をおかけすることもあると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

今年度から本格的に始まった支援改革は、利用者さんの安心・安全、将来への展望について考えさせられることも思い知らされることも多い半年でした。同時に、泉寮では利用者さんとともにチャレンジしてきた半年だったとも思っています。

これまでは個別支援が軸となっていましたが、集団を意識した生活として食事や日中活動、余暇を利用者さん同士と一緒に過ごす機会を今まで以上に作り、職員も経験することで次の機会を考えるきっかけにもなっています。また、快適な生活に向けてリビングや居室の今を改めて見直し、少しずつではありますが寮内に彩りが加わってきています。

私自身、4月からの泉寮生活になりますが、以前は難しいと思われていた事柄が、実際にやってみたらクリアできたという体験は、利用者さんだけでなく職員の自信にもつながっていると思います。

これからも利用者みなさんの喜び、時に苦しみも一緒に感じるために、よく見つけ、関わりながら一緒に進んでいければと思っています。